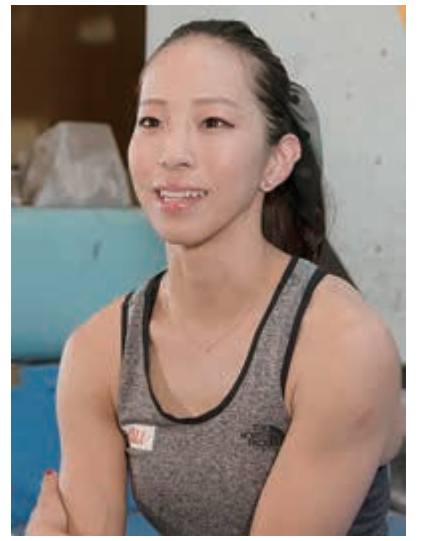


フェアプレイ  
インタビュー  
[スポーツライミング]  
の野口啓代選手



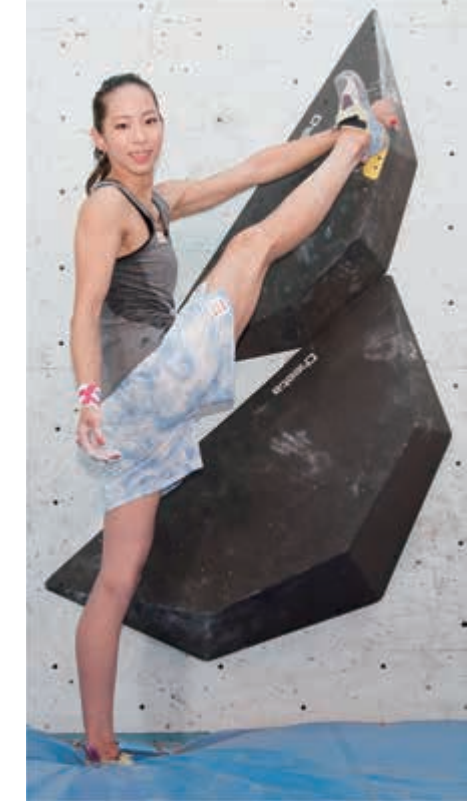
**プロフィール**  
生年月日: 1989年5月30日  
出身地: 茨城県  
趣味: 猫と戯れること

**ワールドカップ  
(ボルダリング)  
年間総合優勝4回!**

みんなで応援し合い、  
ベストを目指して登る

東京オリンピックの新種目

野口啓代選手は小学5年生の時にクライミングに出会い、翌年には中学生も出場する全日本ユース選手権で見事優勝。中学生になると世界大会にも出場するようになり、輝かしい成績を残します。19歳で日本人女性としては初めてワールドカップ(ボルダリング)で優勝を飾り、現在まで世界



の第一線で活躍を続けています。また、スポーツクライミングが追加種目として採用される2020年東京オリンピックでは、金メダルが期待されています。

ライバルにもエールを

「スポーツクライミングは個人競技ですが、仲間と一緒に登ることで互いに学び、成長できるスポーツです。ライバルであっても一緒に登る仲間として考えたいというフェアプレー精神が根付いています」と教えてくれました。「世界各国で開催される試合では、登っている選手の国の言葉で応援を送り合う習慣があります。日本人なら『がんばり！』、フランス人なら『アレー！』、ロシア人なら『ダバイ！』。各国の言葉は話せなくても応援の言葉だけは知っていて、お互いが良い登りができるように声援や拍手を送り合います」スポーツクライミングの選手たちは自分がベストを尽くすのはもちろん、ライバル選手の良いパフォーマンスを見たいという気持ちを強く持っているそうです。

体も頭も良く使う

スポーツクライミングの面白さについては、「どうやって登るか、体だけを動かさなければならぬので、体だけでなく頭も使います。室内の壁だけでなく自然の岩も登れるようになりますと楽しいですよ。観戦する際に



「フェアプレイ宣言」

東京オリンピックで追加種目に!

スポーツライミングって  
どんなスポーツ?

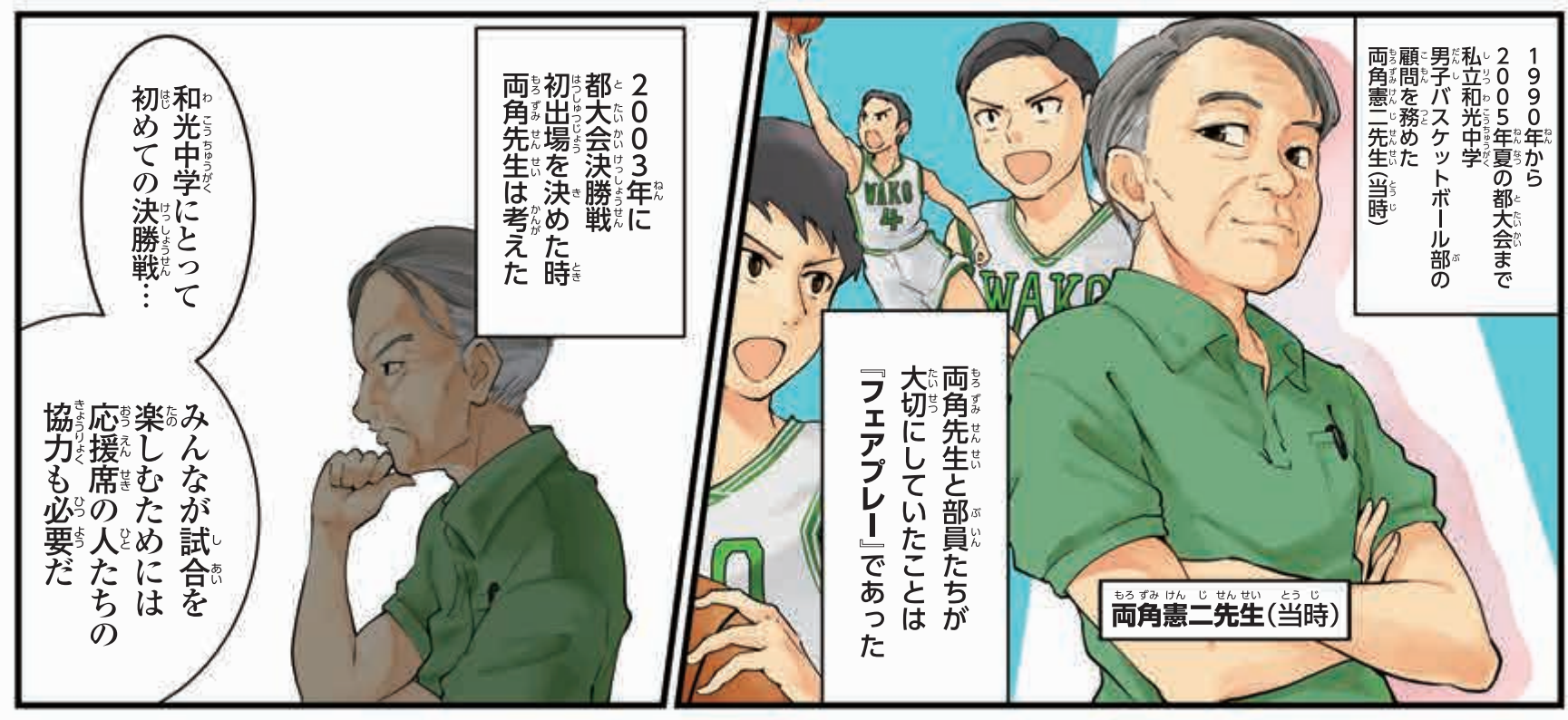
- 次の3つの成績を総合して順位を争います。
- ① 命綱をつけずに登りきった課題の回数を競う**ボルダリング**
  - ② 命綱をつけて登った高さを競う**リード**
  - ③ 命綱をつけて登る速さを競う**スピード**  
(各種目ごとに順位を競う大会もある)



ボルダリングをする野口選手  
写真: JMSCA/アフロ

フェアプレイ  
ストーリー  
応援席のフェアプレー

私立和光中学  
男子バスケットボール部



1990年から2005年夏の都大会まで私立和光中学男子バスケットボール部の顧問を務めた両角憲二先生(当時)

2003年に都大会決勝戦初出場を決めた時両角先生は考えた

みんなが試合を楽しむためには応援席の人たちの協力も必要だ

和光中学にとって初めての決勝戦...



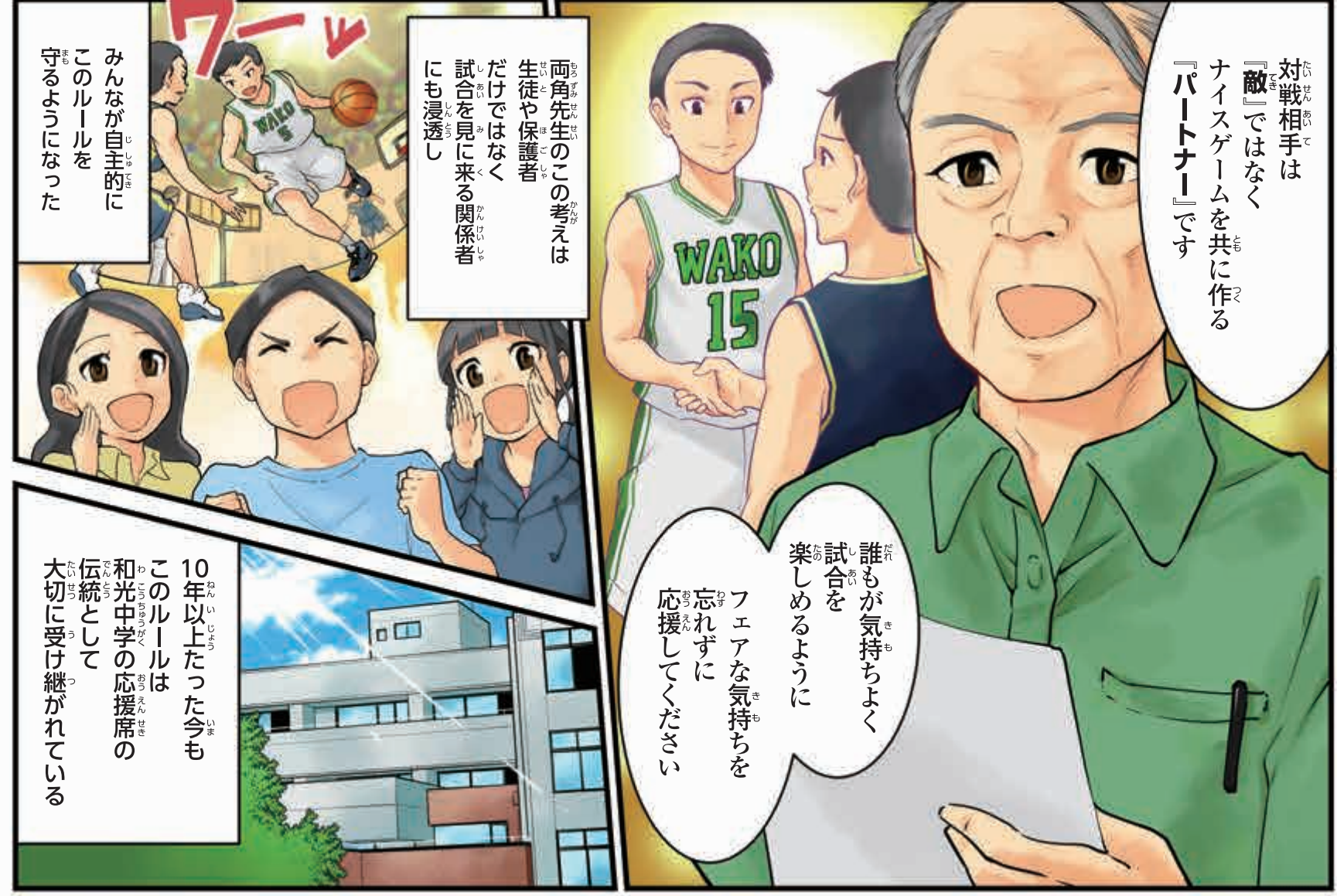
そこには4つのルールが書いてあった

- ①相手の不注意によるミスに拍手しない
- ②相手のフリースローの失敗に対して拍手しない
- ③相手のファールに対して拍手や「ナイスファール」といった声はかけない
- ④審判のジャッジに対する不満の声はかけない

ゲームは対戦相手がいなくても成立します。初めに成立しても、どんなに強くても相手のミスや反則を喜んでいては敬意や称賛は得られません

選手たちが大切にしているフェアプレーを応援してくれるみんなと共有したい

そう考えた両角先生は「和光の丘より」というチランを作り応援に来る生徒と保護者に配った



対戦相手は「敵」ではなく、ナイスゲームを共に作る「パートナー」です

両角先生のこの考えは生徒や保護者だけでなく試合を見に来る関係者にも浸透し

誰もが気持ちよく試合を楽しめるようにフェアな気持ちを忘れずに応援してください

10年以上たった今もこのルールは和光中学の応援席の伝統として大切に受け継がれている